

甘藷の施肥

誰でも增收

できる方法



毎公頃(約一甲地)の平均生産が一萬二千七百三十四公斤でした。然し、この程度の生産では良成績と云へず、嘉義の農業試験所における栽培の結果は、一公頃を生産が三萬一三萬六千公斤に達しました。これは施肥が充分であつたためです。日本での収量を平均しますと、一公頃について一萬八千八百二十五公斤で、臺灣よりも一般に多いが、これも日本農民が施肥を重視しているためです。また、日本では毎公頃について七萬五千公斤位の収量をあげている農民もいるようで、實に驚異に値します。このように、施肥を充分にすれば、甘藷も今迄より三倍位の増収が得られますから、今後はもつと施肥法を研究して、うんと増産に努めようではありませんか。

温暖で、雨量も適當にある本省の氣候は甘藷の栽培に適し、米、甘藷に次ぐ主要作物として廣く栽培されています。これは、甘藷が人間に必要な澱粉質を多く含み、主食として米の代用にできる理由にもよりますが、そのほかに、甘藷は栽培技術が比較的簡單で、また養分を吸収する力が強いので、肥料に乏しくても、相當に收穫を得られる事が大きな原因と思ひます。然し、このように、施肥をしなくとも甘藷は收穫できると考へるのは間違ひで、適當に施肥をすれば、もつと増収でき、肥料の費用を除いても充分に利益のあるものです。次に例をあげて説明をしてみませう。

本省の甘藷生産が最高だつた年は、民國二十九年で、

訂正

前期(十七期)二〇頁中の「牛糞の利用」に於いて、「飼料中に牛糞を五八%……」とあるのは五八%の誤りですから、ここに訂正をしておきます。

肥料の三要素

我々が普通に甘藷と呼ぶのは、球根の部分で、これには炭水化合物よりなる澱粉が豊富に含まれています。この澱粉の形成は加里(鉀)と密切な關係があり、加里の缺乏した土壌では、良好な收穫が望まれません。また、加里は品質を改善して、纖維が少く、

糖分の多い美味な甘藷をつくりますから、甘藷にとつては最も重要な肥料です。加里と反對に、窒素は過度にならないように、充分に注意する必要があります。窒素を多く施せば、なんでも收穫が多くなると考へるのは間違ひで、甘藷に對して窒素施肥が多すぎると、葉莖ばかり繁茂して、大切な球根の生産が減少します。もちろん、窒素肥料を施して、時には巨大な甘藷を生産する事がありますが、このような特大藷は澱粉含有が少く、貯藏し難く美味でありません。また、窒素過多は、葉莖の組織を軟弱にするので、病蟲害に侵されやすいなど、種々の弊害があります。

次に肥料三要素中の磷ですが、この要素を多く施しても特別に産量が増加しません。然し、甘藷の色澤を美しくし、甘くするには、磷の施肥が効果がありますから、品質向上のために大切な肥料と云へます。

肥料の種類

世界各國の甘藷に對する標準施肥量は、毎公頃について、窒素(氮)五〇—八〇公斤、磷酸五五—一〇〇公斤、加里一〇〇—一六五公斤となつています。ここに臺灣で使用する場合の参考として、嘉義試験所で發表した標準施肥

量を表にしてみませう。なほ、表中の硫酸加里が無い時には、鹽化加里(氯化鉀)で代用できます。(單位：公斤)

| 肥料種類 | 基肥 | 追肥 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|
| 堆肥 | 七五〇 | — | 七五〇 |
| 過磷酸石灰 | 一五〇 | — | 一五〇 |
| 硫酸加里 | — | 一五〇 | 一五〇 |
| 硫酸安 | — | — | — |

甘藷は肥料吸収力が強いので、堆肥などの有機質肥料は、養分として充分に吸収し利用されます。また、有機質肥料を基肥として利用すれば、土質を膨軟にするので、球根の生長を大いに促進するなどの利益があります。有機質肥料は、堆肥、綠肥の何れでも良いが、完熟している事が大切です。

化學肥料としては、窒素肥料に硫酸、石灰窒素などがあり、加里肥料には硫酸加里、鹽化加里があり、磷肥料としては過磷酸石灰、熔磷などがあり、何れを使用しても効果がありません。

施肥時期

施肥の回数、基肥のみを一回施すだけでも良いが、砂質土壌では肥料が、流失しやすく、また、窒素肥料が多すぎると、葉莖が繁茂しすぎて困るので、窒素肥料を追肥と基肥の二回に分けて施した方が結果が良いと思ひます。追肥

の時期は、植苗後約三週間、中耕除草と共に、行つて、施肥後は覆土をしておきます。有機質肥料と磷肥は、全部を基肥として使用するの、植苗の十日前に土中に施して覆土をしておきます。なほ、甘藷は根が伸長しないので、一切の肥料は根部に接近した土中に施す必要があります。以上のように施肥をすれば、毎公頃について一萬五千公斤を生産するのは容易ですから、次回からは、この文を參考にして、施肥法を研究し、積極的に増産を計らうではありませぬ。



△田畑輪換栽培は土質を改善し、水稻生産力を増加し、病害に對する抵抗力を増す。
△牛豚の畜舎中に、過磷酸石灰をまき、その上に敷ワラを置く、尿中の窒素の流失を防ぐ。

△灌漑水不足の地帯での稲作は、幼穂形成期から出穂期に配水し、分ケツ期には節水すると良い。
△早刈(ひでり)のために晩植する時には、植えつけ苗数を二三割増加し、穂數の減少や捨實歩合の低下を補うべきである。



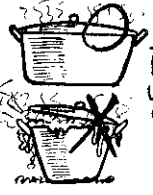
燃料節約の方法 鍋と燃料

少い労働で楽しく生活するには、科學的に生活の改善をする事が大切で、例へば、鍋釜と燃料は家庭の主婦達が毎日使ふものですが、これも合理的に考へて使へば、一年の中には莫大な燃料と労力の節約となるものです。

では、如何にしたら燃料を節約できるでせうか。それには、臺所の竈(カマド)を改良する事も必要ですが、このほかに、鍋釜の形により、燃料の消費が大變に違ふものがあります。例へば鍋を選ぶときには、鍋底の廣い方が、火力を無駄なく使用できて有利です。二十三頁の圖を見ても解るように、鍋底の違つた三種の鍋を比較すると、底の廣いものは早く煮えて、燃料を一割ぐらい節約できます。一割の節約は少いようですが、十日間では一日分の燃料を節約し、一年では實に三十六日分を節約します。そして、これを全國的に各家庭が實行すれば、その節約は莫大な量に達する事になります。

また、鍋底の形のみでなく、鍋は大きい方が經濟的です。例へば、二斤の食物を煮

る時に、鍋の大きさがその二倍であれば、鍋中の水が吹きこぼれる事なく、完全に蓋(フタ)をして鍋の事ができるのを、早く料理できます。煮物をする時には、蓋(フタ)が完全であるかどうかによつて、燃料の消費が一割ぐらい違ふ事に注意しなければなりません。



鍋は大きい方が 良い。

次に煮物の技術を考へますと、食物は細かく切つて煮た方が燃料の經濟となります。例へば、馬鈴薯(ジャガイモ)、三個に少量の水を加へてアルミウムの鍋で煮ると、約二〇分必要ですが、これを一寸位の厚さに切つて煮ると約十六分、更に細かく切ると約十三分で煮えます。これを見ても、食物は大きな塊(カタマリ)で煮るよりも、小さく切つて煮た方が、燃料を一倍ぐらい節約できる事がわかります。

なほ、食物を煮る時に、水と共に入れるのと、お湯をわかしてから煮ると、何れが經濟的か比較しますと、水と一緒に煮た方が二割以上の節約となります。

苗木の年齢

人間の年齢の數へかたを見ますと、東洋では普通に「數へ年」により、幼児が生れると直ぐに一歳で、次の誕生日(生日)には二歳と數へますが、西洋では「満年」で數へ、生れてから何年何ヶ月、すなわち五

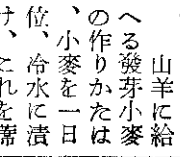
ヶ月の幼児は満五ヶ月と呼び、決して一歳と數へません。これは西洋人の合理的な考へ方によるもので、實際にはこの方が正確なので、最近日本でも西洋流に「満年」で數へようになりました。

これと同じように、臺灣で樹木の苗木の年齢を數へるにも、「數へ年」の方法による事が多く、まき付床に今年生育した苗木を「一年生」といつたり、満一年たつて床替へ(トコガへ)をした苗木を二年生と云つたりしますが、これは非常に不正確で、誤解を生じる事がよくあります。例へば、山行苗(山に出して移植する苗)は二年生が良いと云つても、満一年たつたものか、或は満二年のものか、はつきりしないで困ります。以上の理由から、今後苗木の年齢を數へる時には、満で數へるようになりたいものです。その意味でアメリカに於ける

苗木年齢の數へ方は良き参考になると思ひますので、次に紹介させよう。その方法は、まき付床にあつた年數—第一回床替期にあつた年數—第二回床替期にあつた年數……以上の順序に數字をならべるのです。例へば、

- 一〇……まき付床に一年おいて、床替をしていないもの。
- 二〇……まき付床に二年おいて、床替をしていないもの。
- 一一……まき付床に一年、第一回床替床に二年、第二回床替床に一年以内、または一年たつたもの(二回床替三年生苗)
- 二二……まき付床に二年、第一回床替床に二年、第二回床替床に一年以内、または一年たつたもの。

家畜の發情促進に 發芽小麥



臺灣で多い家畜は、牛豚に次いで山羊(ヤギ)ですが、山羊は粗食で耐久力があるので、飼育も他の家畜に比較して、面倒でない特長があります。然し、臺灣の農家では、山羊を山野に放牧するだけで、飼料が粗悪なので、そのため營養不良になつて、山羊の發情有遅れる事が多い。これは生れる仔羊の發育にも悪く、色々な不利があります。そこで、日本では最近、發情の遅れた家畜に對して、飼料として、發芽した小麥を短期間あたへて、發情・受胎の促進をする方法が一般に普及されてきているので、参考までに紹介してみませう。

(ムシロ)に擴げて、その上から更に一枚の蓆をかけて、乾燥しないように水を散布する。これを四・五日續けると、芽が三四センチに發芽するから、これを飼料として羊に約一週間あたへる。試験によつても、この方法は成功率が殆んど百パーセントで、ホルモン注射よりも有効です。なほ、この方法は羊のみならず、牛の發情を促進するのに應用できるとの事。

(農業朝日より)